

目指す学校像	児童一人ひとりの自己実現がはかれる学校
重点目標	1 子どもの自律を引き出す教育活動、さいたまSTEAMS教育の推進 2 細やかな教育支援・教育相談と安心・安全な学校生活の充実 3 保護者・地域との連携・協働の強化 4 チーム沼影として教育活動に取り組む組織づくり

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和5年2月10日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、国語は全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果分析から、話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると肯定的に回答した児童の割合が高い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査において、算数は評価の観点別でみると全国、市平均と比べ概ね良好な結果であるが、領域別でみると図形と測定で課題が見られる。 ○市学習状況調査の質問紙調査の結果分析から、新しい問題に出会った時、解いてみたいと思うと肯定的に回答した割合に課題がみられる。	・子どもの自律を引き出す教育活動 ・本校の特色あるさいたまSTEAMS教育の実施	①デジタル教材等を活用し、基礎的・基本的な学習に繰り返し取り組む時間の設定及び取組状況の把握を通して、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、自らの学習状況を把握できるようにする。 ③全教科を通して、新しい課題に対して解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定するとともに、振り返りの場を設定する。	①学校評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90％以上となったか。 ②自己採点の結果を基に、児童が自らの学習状況を把握し、目標を立て、その達成に向けて行動ができるようになったか。 ③全教科を通して、児童が自力解決する場、学習を振り返る場を設けることができたか。また、学校評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。	○学校評価（児童）のうち、学習に関する項目における肯定的な回答の割合 【学習に向かう力 88％】 【学習内容の理解 97％】 【学習の振り返り 94％】 【計画的な学習 86％】 ○児童自らが学習状況を把握し、今後の学習につなげる機会を設けた。	A	・本年度の具体的方策について、引き続き取り組むとともに、児童の自律を引き出す教育活動の更なる充実に努める。 ・学習に向かう力の育成を図るため、協働的な学び、体験的な学びの充実にを図る。
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の質問紙調査の結果分析から、学校に行くのが楽しいと肯定的に回答した児童の割合が高い。 ○学校評価の結果分析から、学校での生活が毎日楽しいと肯定的に回答した児童の割合が高い。 〈課題〉 ○コロナ禍によるストレス等、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きく、引き続き、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援・相談していく体制づくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安心、安全な学校生活の充実	①生徒指導・教育相談部会等の児童を支援する関係者が集う場を定期的に開催し、情報共有を行い、児童への具体的な支援につなげる。 ②本校独自の取組「心のカード」を定期的に実施し、必要に応じて関係者で情報共有し、支援につなげる。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。 ②全教員が教科等の学びを深めるICTを活用した授業を実践する。	○SCやSSWを含めた関係者間において、情報共有及び具体的な支援の確認を毎月実施 ①部会を毎月実施し、SCやSSWを含めた関係者間で情報共有し、具体的な支援につなげることができたか。 ②毎月実施し、必要に応じて、関係者間で情報共有し、具体的な支援につなげることができたか。	A	・本年度の具体的方策について、引き続き取り組むことで、関係者間で連携を図り、児童への具体的な支援につなげる。
3	〈現状〉 ○令和3年度に、本校の学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、「あいさつ」をキーワードとすることを共有した。 〈課題〉 ○学校運営協議会準備委員会にて共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組に向けた一歩を踏み出す。	・保護者、地域との連携・協働の強化 ・あいさつあふれる沼影小地域に向けた取組	①本校の学校HPに、学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を家庭、地域と共有できるようにする。 ②目指す児童の姿等を、防犯ボランティアや青少年育成会とも共有し、協働して取り組む。	①学校評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。 ②関係する方々と情報共有し、協働して取り組むことができたか。	○学校評価（保護者）情報発信における肯定的な回答の割合【86％】 ○防犯ボランティアの活動方法を変更し、地域及び保護者との協働により、下校時の通学路の見守り活動を実施【10日間73名】	A	・学校運営協議会及びSSNに係る情報を積極的に発信し、目指す児童の姿等の共有・協働に努める。 ・防犯ボランティア活動の更なる周知及び活動の充実にを図る。
4	〈現状〉 ○教科等の学びを深めるツールとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきている。 ○高学年における教科担任制の実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。 〈課題〉 ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。	・チーム沼影として教育活動に取り組む組織づくりと働きやすい職場の構築	①個の対応に頼らない、各主任を中心とした組織対応を常とする組織づくりを行う。 ②エバンジェリストを中心に、校内でICTを効果的に活用した授業実践事例を共有し、授業改善に活かす場を構築する。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。 ②ICTを効果的に活用した授業実践事例を共有する場を構築するとともに、活用促進を図る機会を設けることができたか。	○学校評価（教職員）組織対応における肯定的な回答の割合【81％】 ○ICT活用に係る実践事例を共有する研修の実施及びICTを活用した授業参観・協議会の実施	A	・本年度の具体的方策について、引き続き取り組むとともに、互いに実践を交流する場や機会の充実にを図り、授業改善につなげる。

・コロナ禍で「学校に行くのが楽しい」「元気に挨拶している」の児童の割合が高く安心した。
・教員に対する信頼度も高く、保護者も安心して児童を送り出していると感じる。
・委員も見守り運動を兼ねてあいさつ運動に参加すると地域交流にもなりよい取組になると思う。
・「安心・安全な学校生活の充実」は、評価指標と達成状況からA評価でもよいのではないかと考える。

・地域の掲示板を活用し、挨拶啓発ポスターを掲示し、地域住民と情報発信、共有できたことは評価できる。
・三位一体となったあいさつの取組は、素晴らしいので継続・拡充してほしい。
・防犯ボランティア活動は、見守りだけでなく、地域との交流にも発展する活動である。
・校庭を地域のイベント等で利用し、交流を促すことも必要と考える。

・ICTを活用した授業改善の具体的方策が成果を上げていて大変よい。

・働き方改革の推進は大いに推奨します。